

歴史と歩む「縁」がいっぱい西荻の街

〜知られざる西荻の魅力とは〜

＜明治時代＞(1868～1912年)

関東ロームという米の栽培に不向きな土地で、外国へ輸出のために、製茶の生産が盛んになった。また、生糸の値段が安定しないことから、江戸時代から盛んだた大根づくりを再開。そして、それにとともに、あんづくりも盛んになった。

＜大正時代＞(1912～1926年)

現代の「桃井原」は公園はかつて、中島飛行機製作東京工場が建設された地で、世界に知られるほど有名な飛行機の数々を作っていた場所だった。この工場には約5000人が働き、毎朝、西荻駅から徒歩で出勤する人で行列ができていたそう。

＜昭和時代＞(1926～1989年)

昭和の初め頃は駅のすぐ近くに家があり、少しはなれるとすぐ、畑や林、草原などの自然がたくさんあった。さらに、昭和47年になると、ずっと続いていた、中央線の降下線工事が終わった。高架線になってからは、ガード下を車がどんどん流れるようになり、駅前には高いビルがたくさん立ち並んでいた。←人車にぎやう西荻銀座通り

そして、現在ではわたしたちが快適に生活をするための大切な場所となっている。

昭和時代を支えた、明治、大正、戦国時代に名を馳せた今川家の源流時代では、江戸時代では、先史時代では、善福寺川の恩恵でたくさんの方が住みつき、で、金蔵時代では、源頼朝の戦国の助けとなり、江戸時代では、昭和時代では、明治、大正、そして、現在ではわたしたちが快適に生活をするための大切な場所となっている。

＜先史時代＞(-28000～300年)

武蔵野台地の東に位置している西荻は、湧水が多い地域だった。また、古いものだと1万年以上前のものと思われる石器が見つかった。多くの縄文土器も見つかったことから、先史時代、西荻は多くの人が住んでいて、必常に人類として住みやすかったということがわかる。



＜鎌倉時代＞(1180～1336年)

源頼朝が鎌倉幕府を開いた。西荻は、源頼朝の足利将軍の居た。西荻は、源頼朝の足利将軍の居た。西荻は、源頼朝の足利将軍の居た。

西荻のこれまで

西荻歴史瓦版

著作:西荻の歩み調査会社

＜江戸時代＞(1603～1868年)

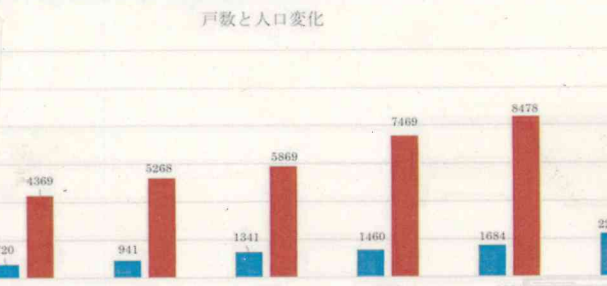
今川義元の息子が桶狭間の戦いで敗れた後、徳川家康が格の高い職務を任された。そして、武蔵国玉井草村の他、合計五百石、三代将軍家光から与えられた。

＜西荻、てなんぞや＞

西荻はある村の人が、荻窪と吉祥寺の間に、もう一つ駅がほしい、と思ったのが、誕生の原因である。それで、当時、荻窪の村長である内田五郎を中心に、役所、そして国が働き始めた。また、地元の住民たちが寄付し、協力し、大正11年に、西荻駅という駅ができた。



＜人口の変化(大正時代～)＞



＜参考文献＞

- ・西荻町学村から街へ
- ・西荻観光手帖 西荻商店会連合会
- ・杉並区の100年 郷土出版社
- ・荻の里 2018年 桃井第三小学校

桃井第三小学校 5年

歴史からわかる。西荻の魅力とは！